

クラス番号	712	担当教員名	山崎喜比古（やまざきよしひこ）
テーマ	健康社会学の視点から「病・ストレスと生きる人々」の予防的建設的福祉を考える		
著書・論文 研究課題等	【最近の主な著書・論文】『健康と医療の社会学・6 刷』、『生き方としての健康科学・5 版』、『薬害 HIV 感染被害者遺族の人生－当事者参加型リサーチから』、『健康被害を生きる－薬害 HIV サバイバーとその家族の 20 年』、『思春期のストレス対処力 SOC』、『SOC 向上策の開発に向けて日本からの提案』（英文）、「日本の男女雇用労働者におけるワーク・ファミリー・コンフリクトの関連要因の検討」(英文) 【ここ 10 有余年の主な科研費助成研究（課題名は省略形）】「病・ストレスと生きる人々の支援科学としての健康社会学の理論および実証研究と体系化」、「患者・障害者・家族・遺族のライフ把握の理論と方法」、「転換期の医療者・患者関係と患者の主体化」、「健康の社会的格差とその形成要因」、「公害・職業病被災者の生活史と社会史」		
ゼミナール概要			
キーワード：健康社会学、病・ストレスと生きる人々、予防的建設的福祉、当事者目線、健康と幸福			
目的、内容、方法等： 健康社会学は、健康と幸福(ウェルビーイング)の観点から、人・人々の生き方を問い、保健・医療・福祉を含む社会のあり方を問い、健康と幸福の回復・保持・増進にとって理にかなった生き方や社会のあり方を探究しようという学問分野です。とかく専門家目線が優位の保健・医療の世界にあって、病や苦悩・ストレスを抱えながら生きている当事者や、主体性を持って暮らしている市民の目線で、健康と社会がかかわる問題を科学的に深め、解決していこうという学問分野です。 私は、この学問分野を大学院生時代以来 35 年余にも亘り専攻し専門としてきました。ここ 7, 8 年の研究テーマ領域は多種多様でしたが、主なものは、「健康的な『働き方』『働かせ方』」、「『病と生きる人々』の人生再構築」、「健康生成論とストレス対処力SOC」に関する研究でした。 健康社会学の、対象に対する見方・関わり方と理論・方法は、そのまま社会福祉学に使えます。また、今日ますます重要性が謳われている予防的・建設的福祉の構築にも寄与し得るものとも思っています。 このゼミでは、①当事者を訪問し彼らと対話することと、②優れた文献をみんなで輪読し討論することの二つを通して、健康社会学が可能性として持つ対象に対する豊かで確かな目と頭を育み、品性ある態度を身に付けていくことを学習目標にします。 授業計画： 3 年前期・後期は、上記①のフィールドワークと②のデスクワークを 1 対 4 の割合で交互に進めながら、健康社会学の対象に対する見方・考え方・関わり方や理論と方法の習得をめざします。後期には、②のデスクワークの 3 分の 1 の時間を専門演習論文(以下卒論)への準備に当てます。 4 年生では、②の比重を高め、中味も、(a)卒論関係の先行研究文献の報告と討論、(b)卒論の発表と討論、(c)国家試験に向けての勉強会、の三つとし、それぞれに 3 分の 1 の時間を当てて充実させます。 ゼミコンや交流企画等を年に 1, 2 回実施したいと考えています。			
担当教員からのメッセージ			
	日本福祉大学は新任の私ですので、ゼミの進め方は学生の皆さんと協議しながら進めます。 発見と気づきと学びの多いゼミ、明るく楽しいゼミ、厳しくも優しいゼミを目指します。 2011 年 3 月末まで 27 年間従事した東大医学部保健学科で受入れ教員として卒論生は合計 70 名、16 年間に指導教員として修士号取得者 67 名、博士号取得者（見込者含め）30 名を世に輩出してきました。それは、東大全学でみても最高の実績です。 学生・院生のもっている可能性を信じ続けること、いいところ探しをすることに心掛けてきた成果と思っています。とにかく、それを日本福祉大学でも貫きたいと思っています。		